



世界かんがい施設遺産

源兵衛川三島を登録

県内2例目 歴史的な価値認定



世界かんがい施設遺産に登録された源兵衛川＝三島市内

三島市の源兵衛川が8日、国際かんがい排水委員会（ICID）が歴史的価値のあるかんがい施設を認定する「世界かんがい施設遺産」に登録された。登録審査がタイで行われ正式決定した。国内候補として推薦された昨年は保留となり、1年越しの登録に施設管理者の一つ、NPO法人グラウンドワーク（GW）三島の渡辺豊博専

務は「世界的な価値が付加されたことは大変喜ばしい」と話した。2014年の深良用水（裾野市）に続き県内2例目の登録。建設から100年以上経過した歴史的ながい施設の認定制度で、ICIDが農業の発展や食糧増産への貢献、建設技術などを審査。今回は源兵衛川のほか、13件登録された。

再申請は昨年同様、GW三島と市、中郷用土地改良区の3者連名で行い、源兵衛川の概要、特徴や申請の妥当性、現在の保全状況などを細かく記載した申請書を提出した。源兵衛川が「地域の食料生産強化、生計の向上、農村発展、貧困削減に大きく貢献した」「施設の着想が建設当時としては革新的だった」「伝統文化や過去の文明の痕跡を有する」ことを強調した。

源兵衛川は、16世紀に用水が不足し農業が不振だった中郷地区の耕地に広く水を供給するため建設された。1960年代に環境悪化により湧水量が激減し

たが、市民活動などで清流を復活させ、現在も維持している。渡辺専務は「保留されたことで歴史的、文化的な視点から源兵衛川を再認識できた。三島の宝が世界の宝と認められたことを喜ぶとともに責任も感じる。世界から見て恥ずかしくないよう、しっかりと維持していく」と話した。